

ふれあい記録

実施日：2024年9月19日

当番者名：和田龍子・田中宏巳

コース名：日金山ハイキングコース

(通し番号 第198回)

天候：晴れ時々曇り

参加者名：石井 公子、岩崎 宗郷、江口 正彦、小俣 悦男、神谷 順子、熊谷 信雄、新海 昭、田中宏巳、鶴岡重典、西村寿文、船橋エイ子、細谷清志、宮原宏至、和田龍子
(以上14名)

<ビジター> 齋藤國男、野口和夫 (以上2名)

計 16名 (内、男性 12名 女性 4名) (五十音順)

交通：集合 JR東海 熱海駅改札 午前8時55分

往路；バス乗り場で十国峠方面行きが土砂崩れで通行止めを知る。急遽、計画変更し、笹良ヶ台入口より日金山に、それより岩戸山方面に向かうことにする

コースタイム (時刻)：熱海駅バスターミナル 9:18→ 笹良ヶ台入口 9:47 (運転手のご好意で姫の沢公園分岐までバス移動 10:20) → 登山開始 10:30→ 十八丁目 10:50 → あずまや 11:15 (一人行方不明) → 三十丁目 12:00 昼食 → 東光寺・岩戸山分岐 12:50、一部を除き東光寺参詣

再度変更して分岐をより湯河原ハイキングコースを下ることにする

東光寺・岩戸山分岐出発 13:10 → 先頭と最後尾が大きく開く

(先頭組) 日金山登山口 15:15 → 落合橋バス停着 16:35、16:57 → 湯河原駅着 17:06

(最後尾組) 三十八丁目 13:40 → 熱海市水道局集水施設 14:10 → 救急援助要請 16:01 → 救急車収容 17:15

みどころ：交通止めにより、十国峠方面に行かれなくなったため、笹良ヶ台入口より日金山東光寺岩戸山分岐を目指すことになった。参道の周囲はススキの原っぱで、下方に熱海の市街地、海、初島を見たが、大島や利島はモヤっていて見えなかった。

東光寺では彼岸の法要が行われていたが、彼岸の頃に訪ねると、参詣者の中に会いたかった人の後ろ姿を見ることができるといわれている。昔の彼女・彼氏の後ろ姿を見た方がおられましたら、家庭争議にならぬようくれぐれも内密に。

一丁は109m、数えながら歩く楽しさがあったが、抜けていたり、数十mの距離しかない場合もあり、暑さでボーッとしている頭にはきつい中間試験だった。

自然観察：ススキは穂を出し揃え、お月様と団子があれば、さぞや優雅なお月見ができそうな風情があった。秋の七草であるフジバカマ、オミナエシ、ナデシコのほか、ワレモコウなども見られたが、桔梗は見当たらなかった。あまり見かけなくなったトンボが乱舞していた。子供の頃に見たのはもっと多かったが、それでもあれだけの数が飛んでいるのを見て、なぜか安堵した。分岐からの下りの途中に湧水があり、これが藤木川の源流と思われる。湧水のため水温が低く、川の周囲には冷気が漂い、川面を吹く風もヒンヤリしていた。

特記事項：静岡県は関東に入らないため、通行止めのニュースがテレビにも新聞にも出ることがない。事前の情報収集に意外な盲点があることを教えられた。

現地で急遽未調査のルートを選んだが、計画通りの道を歩いていれば落伍者を出さずにすんだかもしれない、ルート変更の意味は大きい。いずれにしても、全員が無事に下山できたのは何よりであった。